



"To acknowledge the duty that accompanies every right"  
 Affiliated with the International Association of Y's Men's Clubs

# THE OSAKA CENTENNIAL

C/O KITAMURA BUSINESS CONSULTANTS OFFICE  
 503 Shinsaibashi Urbanlite  
 1-5-12 Nishi-Shinsaibashi Chuo-ku  
 OSAKA 542 JAPAN

MAY 1996. No. 11  
 The Service Club to the YMCA  
 Chartered September 25, 1982

MOTTO (1995~1996)

- IP "Youth-Our Heritage-Our commitment" 「ユース-我らの財産-我らの誓い」  
 AP "Y'sdom working with YMCA. Y'sdom working with Youth" 「ひとつとなって青年とYMCAへ」  
 RD 「共に生きる喜びを確信しよう」  
 DG 「今、ワイズの原点を見つめよう」  
 CP 「ひとりびとりを大切に！」 "Valuing each and every person"



○月間強調テーマ：「YMCAサービス・ASF」

## = 5月の聖句 =

すると、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスを試そうとして言った。「先生、何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか。」イエスが、「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか」と言われると、彼は答えた。「『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります。」イエスは言われた。「正しい答えだ。それを実行しなさい。そうすれば命が得られる。」  
 (ルカによる福音書 10章 25 ~ 28節)

## = 5月お誕生の方 =

Happy Birthday to following people .....  
 隅田君 3日, 秋月君 8日, 奥野君 8日,  
 杉浦君 8日, 川越メット 16日

## === 5月第1例会 ===

日時：1996年5月15日(水) 6:30 ~ 8:30 p.m.  
 場所：大阪グランドホテル

司会：福永嘉彦君

1. 開会点鐘 柴田健会長
2. ワイズソング ー 同
3. 聖句朗読 中村幸枝メット
4. ゲスト紹介 柴田健会長
5. 日々の糧及び黙禱 ー 同
6. 晩餐 ー 同
7. 卓話 「ボランティア・アソシエーションとYMCA」  
 大阪YMCA 角正信氏
8. お誕生日祝い ー 同
9. ニコニコ献金 ドライバー
10. 役員会・委員会報告・YMCAニュース
11. 閉会点鐘 柴田健会長

4月在籍者	4月出席者		4月出席率	BFポイント
29名 広義会員	15名	12名	62.1% (メットメット)	4月分切手 580 gr. 現金 2,500円
0名 合計	7名	5名	前月出席率	本年累計
29名	0名	0名	修正 ー %	切手 5,650 gr. 現金 15,710円
	1名	0名		(購"4月BF誌"をご購読 扶.)
	3名	0名		
	合計 26名	17名		

役員  
 会長：柴田健  
 副会長：黒田巖之  
 "：佐藤勝雄  
 書記：栗山佳三  
 会計：秋月利英  
 "：津田葉清政

◎4月ニコニコ献金  
 17,600円

◎5月第1例会当番：(第1班)中村君, 福永君, 真鳴君, 河村君, 奥野君, 池永君,  
 堀君, 川越君：会場の受付・準備・後片付けなど宜しくお願いします。

《今月の聖句によせて》

昨年の阪神大震災でのボランティア活動は目ざましく、ボランティア団体としてのYMCAの働きも大きく注目された。

さて、ボランティアの語源である“ボランティア”は中世の教会ミサでの瞑想中に即興でひくオルガン曲のことで、オルガン奏者が、自分の心にほとばしり出て来る神への讚美を音楽に表現したものであるが、これがあくまで自らの心の発露から起きたところから、ボランティアリズム、ボランティア精神が生れたといわれる。

今月の聖句にある“隣人を自分のように愛する”心は、その人の心から自然に流れ出るものでなければならず、これこそボランティア精神の根源である。  
(聖句撰・解説：田中 穰二)

＝ 4 月 第 1 例 会 報 告 ＝

福永 嘉彦

今年は珍しく桜が満開の中で、4月の第1例会も活気に溢れて開かれました。まず、柴田会長より提案された中村幸枝さんのメネット会長就任を全員が承認し、そのあと、今月の月間強調テーマの“LT”に因んで、「Y'sdom に於けるLTについて」—YMCAとY'sメンの体験を語り合う—と題して対談がなされました。それには、この度大阪YMCA総主事に新しく就任された増成恒哉氏をお迎えして、当クラブの谷川寛君と対談して頂くことになりました。

田中穰二君の司会により、まず対談の前にご二人よりそれぞれお話を伺うことになり、最初に増成総主事より概要次のようなお話を頂きました。

人に対する接し方として、相手の気持ちを思いつつ感受性を豊かにして接することの大切さを感じています。大阪YMCAの厳しい財政状況に対することも大切ですが、元来YMCAは人を育ててきた団体であるのに、最近それが出来ていない。それは経済成長に重点を置いて追求してきた反面、大切なものを失ってきたためであります。これからは、生命に価値観をおく考え方、世界の人々と共に生きてお互い助け合っていく「共生社会」の実現が最大の課題であると思います。

YMCAは、いま社会福祉法人の認可を申請しています。それは高齢化社会の中にあって、いま私達は高齢者も含めて共に歩いていく方策として、高齢者の方にプログラムを提供するだけでなく、そういうプログラムを若い人達とともに担っていけるようにすることを企画しています。具体的にいえば、東大阪YMCAが八戸の里にグラウンドを持っているが、そこへ特別養護老人ホームをつくり、地域社会との交流を図り、

総合的社会福祉の活動を担うと共に、将来は福祉医療の必要性に応じるための指導者を養成しなければならないと考えています。

そこで、社会福祉法人の中にボランティア・センターを作り、地域社会の要請を担えるように、また委託を受けて在室ケアなどを展開するため、専門家だけでなく、地域のボランティアの方々と共に活動を通してYMCAの事業に参画してもらおう。そのためにこのような活動が出来るボランティアを養成する必要があると考えています。

来年4月に東大阪YMCAに特別養護老人ホームを開くと同時に、大阪府下、北部、中部、南部の3ヶ所ぐらいでボランティア・センターをつくるのが出来ればと考えています。

原点に戻って地域社会の方々とともに活動できるように新しいスタートを始めようと準備を進めているところです。

Y'sに望むことは、いろんな形で新しいYMCAを吹聴して、新しく支援して頂くY'sメンを増やして頂きたい。そうすればYMCAの会員も増えることにつながると思っています。

次に谷川 寛君から次のような発言がありました。

Y'sは、現在ボランティア活動ができていますが、自分たちで自己研鑽をしてボランティア活動を継続できるようにしなければならない。そのためにも、Y'sを引っ張っていくリーダーをトレーニングする場を持たなければならないと思います。

Y'sは、入る前にオリエンテーションを受けて、YMCAの奉仕クラブであることをいわれますが、理解しにくい。まず入った後、いろいろな会合に出ることによって、自分なりにY'sが自然に分かってくるものです。それと同時に日本のY'sがよくトレーニングされていることは、高齢化しているものの、会員数は伸びていることにも現れています。

当然Y'sとYMCAとは協調・協力の関係であるから、是非いろんな機会をとらえて参画される必要があるのではないのでしょうか。外の活動に出ることも必要です。YMCAの奉仕クラブということであって、Y'sと同様YMCAの理解が必要です。Y'sの会員はYMCAの協力会員になって頂くことが望ましいのです。

センテニアルの場合には、国際奉仕に力点をおいているから、YMCAのプロジェクトを援助して、留学生バザーなどに参画する機会を作って奉仕することが貴いと思います。日本のY'sはアジアを始め、世界の中で大変いい働きをして貢献してきています。米国は大きなエリアでありながら4,000人を割っているが、日本区は3,000人以上になり、大きく伸びています。目標は6,000人で、かなり状況は厳しくなっているので、これからも大いに若い人の会員増強をやらなければならないと思います。我々メンバーもY'sメネット



（「共生社会」の実現を強調される増成総主事）

も、Y's運動を理解すると同時にYMCAに奉仕をする努力をしなければなりません。YMCAの中で理事の私も、その一端を担ってPRをすると共に、自己反省も含めてこれからはY'sとYMCAのパイプ役にならないといけないと思っています。LTの一環としても会長を経験された方は、新しいYMCAの活動に参画して頂く必要があります。また、世界的には若い人や女性の参画が大きなテーマになってきています。

続いて出席者も交え、話し合いがなされました。

○増成総主事： YMCAの活動に参画することによって、Y'sがもっと発展するので、Y'sがYMCAの中にコミットしてくるのです。

○杉浦眞喜子君： いろいろのところへ参画すれば分かると言うのは本当のところですが、YMCAとは何かといわれても、これだといえないもどかしさを感じています。浸かり過ぎてしまうと何かということが疑問でなくなってくるものです。そこで自分を生かしていけるのではないのでしょうか。また、YMCAが高齢者ケアをやっていること、時流に乗っていると思いますが、単純に考えて、YMCAのYは青年に対するアプローチとされているのに、どうして高齢者が出てくるのかという疑問があります。しかし、そこに働くボランティアを育てるということならば理解出来ます。

○増成総主事： それはその通りです。一番の狙いは、これから高齢者の人達を支えていく若い人達を育てていくことであり、それは専門家だけでなく、ボランティアとして進めていくのです。幼児から高齢者まで、お互いに助け合いながら生きていく社会であります。具体的に、高齢者だけが施設で生活するのではなく、プレスクールのプログラムを取り入れ、子供たちも施設に入ってもらい、高齢者が今まで育ってきた環境の中で共に生活して頂けるようにしたいと思っています。また、ボランティアの人にも入って貰



（いろいろな機会をとらえて参画が必要と力説される谷川 寛君）

い、一緒になってプログラムを進めていくのです。考え方としては、高齢者だけを扱うというのではなく、若い人達と共にこのプログラムを進めるのであり、それをみんなに分かってもらうために地域で広めていきたいと考えています。

○谷川君： YMCAも時代の流れと同時に多様化してきています。池永さんのように、震災のとき参画して貰ったりしたのです。要は、外から見ているよりも、実際に入って貰って、YMCAとはこんなものかという事を掴めるようにする。その事がYMCAから離れられないものにします。坂本哲朗君もお父さんの土佐堀ワイズに連れられて体についている。それがY'sであり、YMCAであるのです。例会だけでなく、いろいろな機会を捕らえて継承されているみたいであると言っておられました。自分のものをもっと地域に生かしていくのです。鈴木さんいろいろな面に係わっておられます。

○黒田蔵之君： 大阪だけでなく、全国的にYMCAは事業化しているのが事実です。増成さんが福祉事業に取りかかろうとしておられる。それならば、スタッフ全体が福祉の心をもって仕事に当る必要があります。これから募金にも着手されるでしょうが、募金をさせて頂く謙虚さを持たなければいけないと思います。

最後に谷川君は、我々社会福祉はお互いのことを考えてやっていくのであり、YMCAの本米もっているものを生かしていく沢山の場があるので、我々は大いに見守りながらサポートしていきたい旨話されて、対談を終わりました。

以上の対談を通して、今後のYMCAの新しい方策が示されると共に、Y'sとYMCAとの協調関係について貴重なご意見の交換がなされたことは、非常に有意義な成果を挙げることが出来たと思います。以上

中西部EMC  
シンポジウム報告  
(1996年3月30日)

三浦直之

春雨の降りしきる日でした。YMCA土佐堀館において、豊富な経験談を交えた基調スピーチが岡本尚男日本区直前理事によって行われたあと、参加者29名は5グループに分れ、EMCについて理解を深める熱心な討議を行いました。各グループの討議内容の発表を聞くと、このプログラムは成功であったようです。

○基調スピーチ

6000プロジェクトが発足してから、会員の数が約2,900から3,300に増加しました。その間に、約800人が退会されました。会員に退会させないようなクラブであることが必要です。

ワイズを続けた人と、続けなかった人の人生の差は、いずれ出てきます。クラブの例会は、人を育てるからです。開会と閉会の時刻は、社会人として当然守るべきルールです。例会において、相手の人格を認めた緊張感ある雰囲気では育ちます。親睦をはかることが第一です。親睦は信頼を作り、奉仕の世界に続く道です。会員数が多くなり親睦を効果的にはかるのが難しくなったら extension します。奉仕は自分の背丈にあうところから始めることです。団体奉仕活動の提案は個人的な事情で反対するのが難しい場合もあるから、慎重に行うようにします。クラブの在り方について、その他幾つかの具体例を挙げてのお話でした。

又、個々の会員においては、自己研鑽に励もうとする謙虚な姿勢、例会出席の努力、時間を守る努力、会費は期日迄に納入する、役員就任要請があれば断らない、メネットの理解を得ておく等が、求められています。

EMCのために、クラブの在り方、又会員の在り方の両面から考えるように、ということでした。

○グループ討議発表の意見

- 新入会員に、役割を与えてクラブに早く慣れてもらう。
- 新入会員に、メンバースピーチを依頼する。
- 新入会員に、第二例会に出席させる。
- 新入会員に、対するフォローは、紹介者だけでなく、全員で行う。
- 新入会員に、入会前に講習会をする。

- ・振り返ると、会員が増えた時期には、親睦がはかれていた。
- ・現在いる会員を大切に。
- ・例会の活性化をはかるために、ドライバーの役割を見直して、例会の企画、司会、出欠確認等を任せてはどうか。

- ・結婚記念日の月には招待状を送り、例会にメネットを無料招待する。
- ・会員の高齢化が進んでいるので、若い会員の獲得を心掛ける。
- ・例会は時間を守る。
- ・出席率90%以上を目指す。
- ・期間をきめて他クラブと交換留学をする。 以上

▽ 中西部次期クラブ役員・連絡主事  
研修会報告

栗山佳三

去る4月20日、大阪YMCA会館において中西部次期クラブ役員・連絡主事研修会が開催され、当クラブから栗山、山田、三浦、河村の4氏が出席しました。

今村一之次期中西部長(大阪土佐堀)の開会点鐘、挨拶があり、次期中西部長標語「Y's FIRST」活動方針「メンバー・クラブ数を増やす」が示されました。また、これを受けての活動方針では、「なかのしまクラブ」のチャーターも組み込まれており、当クラブの責任を改めて痛感した次第です。

続いて次期のクラブ活動について、各クラブの代表者からそれぞれ発表があり、これらを総合して中西部の次期目標とすることになりました。

引き続き、メンバーの入退会、半年報告書等のワイズの事務手続きについて水上次期中西部書記の説明ワイズメンと連絡主事、あるいは連絡主事間のコミュニケーションの緊密化を図るための連絡主事会議の開催の提案などがあり、活発な討議のなか、午後5時に閉会いたしました。

なお、この会議の席上、今村次期中西部長が7月17日(水)の当クラブの第1例会にクラブ訪問されること、また、西クラブが9月28日(土)にチャーター10周年の記念例会を開催されることが明らかになりました。 以上

= BF 4月分報告 =

(4月分の合計・本年度累計は第1面に掲載)

○切手・現金提供者：(50名、5名)

池永、栗山、黒田、柴田、杉浦、隅田、田中、谷川、津田葉、長瀬、福永、山田、山村

以上 13名

○今月も、切手・現金の御協力有難うございました。切手は センテニアルペース で努力を続けて行きたいと思いますが、現金は、5月に締切り、日本区へ発送の予定です。

(BF 長瀬)

## 《「なかのしま」4月例会報告》

川木 秀子

「なかのしま」4月例会は、いつものように開会し、ワイズソングを歌ってなごやかに始まった。その後、社会の慣例に従って新年度（ワイズは7月だそうですが）の抱負を交えて、自己紹介を行った。その中で、早く私達のクラブをチャーターしたいという希望も出された。この3月ミャンマーへ縫製指導ツアーに行かれた山地和歌子さんと戸田亜理子さんのお話によると、民主化もあまり進んでいないし、物価も上がり、貧富の差が大きくなっているとのこと。クラブの活動の1つに考えている「ミャンマーの女性の自立を助けること」の開始が急がれるところです。また、久しぶりに出席された吉岡香代子さん、それから、ミャンマーからの留学生で大阪工大の4回生のヤン君も交えて、ミャンマーの現状のお話が続きました。ここで、食事が始まり、自己紹介が続き終了後もしばらくミャンマーの話題が続き、私達未来のクラブメンバーは山地さんの材料持ちで、是非ともミャンマーの土を踏む必要が痛感されました。またミャンマーは急速に変化しているから、5年程帰っていないヤン君に「驚くよ!」というお話しもありました。食後のコーヒーになり、いよいよスピーチ「ミャンマーの縫製指導の旅」の始まりです。最初に戸田亜理子さんからこのプロジェクトの概要が説明されました。今回で4年目10回目のツアーであり、マンダレーで約20名の生徒による10日間の縫製指導を実施したこと。今回は、保育園の先生で3ヶ月程度技術修得後、ソーイングの先生等に対して行われたこと。幼稚園児の制服などをボランティアで作ることなどによって、その一部を収入にしたり、YMCAの資金にすることができるなど。続いて実際に縫製指導された山地和歌子さんから生徒さん一人一人の写真と成績表を前に話されました。今回、10日間で10ヶの作品を制作し、おまけに“さしこ”も仕上げたとのこと、一同「えー!」と絶句、あらためて、山地さんもミャンマーの人も「すごいなー」と思いました。これでも「一日ピクニックに行ったのですよ!」とのことでした。今回は特に、ミャンマーの人達の内緒話がわかって楽しかったとのこと。この件に関しては、別途に詳細が報告されますので、それをご参照ください。

次に懸案であるバナーについて、先月の宿題があったのですが、戸田さんの持参されたデザインに決まりました。最終的な色については業者と相談して決めることになりました。引き続き戸田さんをお願いすることになりました。もうすぐ、すてきな私達のバナーが見られますね。このようにクラブの活動目標が有り、バナーのめどがたち、すでに会則は決まり、クラブ誕生の夢が一步一步実現しています。後は、メンバー数ですね。ノ

3月ミャンマーツアーに行かれた戸田さんからかわいい“ふくろう”のおみやげを出席者全員2つもいただきました。ありがとうございました。

今月の出席者は、松下、杉浦、戸田、山地、保田、吉岡、川木の7名とセンチニアルから会長、三浦、山田、山村、栗山、津田葉の6名に加えて、ミャンマーからの留学生ヤン君でした。

▽▽▽

▽▽▽

## YMCA ニュース

大阪YMCA 河村 実

●すでにお知らせ、ご案内していますが、確認の意味で、4月～6月にかけてのYMCA関係行事をお知らせします。みなさんぜひ御参加ください。

ボランティアフォーラム	4月20日	大阪YMCA会館
午餐会『PL法を巡って』	4月26日	〃
イースターコンサート	4月27日	〃
大阪YMCA創立記念講演会	5月24日	〃
第2回チャリティーラン	6月16日	鶴見緑地公園

●現在、大阪YMCAでは、幼少年たちと共に成長すす事を願う野外活動、ユネススポーツのボランティアリーダーを募集しています。よい青年がいらっしゃいましたらお近くの地域YMCAにご紹介ください。

●3月例会の強調テーマでありましたウエルネス実践の環境として、またYMCAをさらに深く知っていただく場として、チャリティーランの事前トレーニングの場として、ぜひお近くのYMCAフィットネスセンターをご利用ください。

大阪YMCAフィットネスセンター	西区土佐堀
YMCAヴェクセル	港区弁天町
西YMCA	此花区西九条

▽▽ 大阪YMCA創立記念講演会 ▽▽

菅野綾子氏講演会

「世界の貧困」

日時：1996年5月24日（金）6:30～8:00 p.m.

会場：大阪YMCA会館 2階ホール

聴講料：無料

主催：大阪YMCA

申込：各YMCAへFAXまたは官製ハガキ（氏名、連絡先、電話番号、所属団体などを記入）でお送り下さい。

（大阪YMCAは創立114年、創立の日は6月4日）



(“かるかんマンジュ”で話掛するマン・メネットの面々)

## 一泊研修会雑感

柴田 健

絶好の晴天に恵まれ、センチニアルの第2例会が、琵琶湖畔にそびえる半円形のフォルムの超高層38階大津プリンスホテルで開催されました。

長老鈴木謙介メンの発案で、種々旅行社のパンフレットをとり寄せ検討の結果決り、4月21日(日)～22日(月)になりました。21日夕刻7時ホテル集合、翌朝9時～10時30分ミーティングということで始まりました。

私は家内と三浦メンの車に同乗させて頂き4時前に着きましたが、すでに谷川、坂本メンはテニスに行かれたとか、小生は一眠りして、廊下で福永メン、藤原

メンと会う。当日修学旅行の学生中学と思う男女生徒がいっぱいで、にぎやかなこと。

7時に27階のニューヨークというレストランに集合、琵琶湖の夜景が美しく、楽しい夕食のひとときを過ごしました。後で山田夫妻の部屋に“かるかんマンジュ”があるというので、鈴木、隅田、谷川、坂本夫妻と柴田メン・メネット、福永メン、栗山メン、三浦メン、山村メン、藤原メン、17名が集まり、和気あいあい写真撮ったり、話はずむうち、マンジュが無くなったところで解散。私は部屋で一風呂あびてTVをみて就

寝。翌22日(月)は、午前9時より瀬田という会議室で例会実施。チャリティランに1チーム出すこと、5月のプログラム等の検討後10時30分例会終了、11時チェックアウトで解散。

それぞれ目的地に向け自由行動となり、桜の花の満開の琵琶湖をあとにしました。当日会社の仕事のある方々は朝一番に帰阪されました。

“楽しくなければY'sではない”ということを実感した次第です。

プログラムを組んで下さった鈴木メン、琵琶湖畔をドライブし桜のトンネルを見せて下さり、帰りの車の渋滞に会い苦勞された三浦メンに、そしてメンバーの皆様へ厚く御礼を申し上げる次第です。

## ＝ 4 月 第 2 例 会 報 告 ＝

(4月22日(月) 9:00～10:30p.m.)

(於 大津プリンスホテル会議室瀬田)

### 1. 大阪YMCAチャリティーラン'96について:

開催日: 6月16日(日)雨天決行

会 場: 大阪市花博記念公園

・4月19日実行委員会があり、当クラブより柴田会長が出席。当クラブは「運営」(受付)を担当とし、ランナーは1チームをエントリーした。

・エントリーのランナーを次の通りとする。

栗山君、坂本君、坂本メネット、谷川メネット、三浦君、山田君 以上6名

・次回実行委員会: 5月20日(月)、6月10日(月)

6:30～8:00p.m. 於 大阪YMCA会館9階

・それまでにYMCAの職員の方が現地調査される。

・当日は9時開会のため前日より準備が必要。

・当クラブよりも出来るだけ協力するよう会長より要請があった。

### 2. 5月第1例会: 別掲プログラムの通り。

### 3. 6月第1例会: 月間強調テーマ「反省と計画」

新年度計画・予算案の提出を5月に依頼し、

6月第1例会にて発表。恒例の表彰もする。

### 4. 新旧会長交替式は7月第1例会にて行う。

### 5. 国際大会へのユース代表派遣: 当クラブの推薦者は無し。(賛: 畝)

## ◎ 95/96年度日本区強調月間アピール

5月 YMCAサービス・ASF

YMCAの奉仕団体であるワイズにとって、重点事業といえるでしょう。クラブの主體的なプログラムを一つだけ考えてください。

そのプログラムが求心力になって、会員増強に結びつくかもしれません。また、今までのプログラムに新しいプログラムが追加されれば、新クラブの設立に向けて、一歩踏み出したこととなります。数は力です。それがより大きなYMCAサービスにつながります。(BSD 増田吉秀(親))

谷川 寛

三月香港で行われたアジアYMCA同盟常務委員会に出席しましたが、この折 Betty Lai さんと Sophia Fong さんの二人の元会長に会いました。現在の会長 Anita Wong さんにも会いました。

最近の便りによりますと、七月六日に香港で全香港のクラブによる合同の入会式をするそうです。その機会に是非センチメンタルのみなさんと香港に来ませんか、とのことですよ。

宿泊ホテルは YMCA International Hotel が新装されました。このホテルをアレンジするとのことですよ。20%割引するそうです。私もこのホテルに泊まりましたが、なかなか良いホテルです。ワイズメネットのみなさんで行かれませんか。

~~~~ メネットだより ~~~~

『阪和部合同メネット会に出席して』

山村 利子

4月20日(土)、すこし遅い春、桜も満開でした。

日本聖公会奈良基督教会で開催されました。午前中はシオンホールで、福島多恵子日本区メネット事業主任の挨拶からはじまり、各メネット会の活動報告があり、「神戸YMCAの復興と救援にむけたボランティアの支援と養成」に献金を捧げました。

午後、場所を礼拝堂に移し、木原勝彬さんの記念講演「奈良町」と題し、奈良まちづくりの話をお聞きしました。

この教会は1885年(明治18年)伝道を始め、1930年親愛幼稚園が開設され、興福寺の隣であることを配慮して、礼拝堂、幼稚園、両者共に吉野桧材を用いて、和風建築を最大限に取り入れ、床はフローリング、天井は格天井、窓は障子窓、十字架は正倉院御物をデザインし、その他聖堂には美術的にも価値のある備品が多数ありました。

又、聖堂にマッチしたパイプオルガンが設置されており、オルガニスト佐分利みどりさんのすばらしい演奏を聴くことができました。



谷川 寛

四月はじめ吹田西ロータリークラブ(山村幸明会長)の例会でお話する機会を与えられました。テーマは上記の通りです。

アメリカのサービスクラブの動きは、私たちワイズにも関係ありますので、その話しのレジメを以下に報告します。

毎年秋に北米で“奉仕クラブ”の指導者の集まりがある。これにはロータリークラブ、ライオンズ、J C、ソプロチミスト、ワイズメン、等の宗教団体ではない奉仕クラブが集まる。この会議には北米にある約22の奉仕クラブのリーダーが参加する。

アメリカでは、奉仕クラブの活動が第2次大戦後ずっと活発であったが、どの奉仕団体も最近会員数を減らしている。この会議のリポートによると22の団体のうち、ロータリー等ごく限られた団体が現状維持、他の団体は退潮が目立つ、会員の高齢化などもその原因の一つだが、アメリカの中産階級の動きが、これに関係している。

アメリカ人は本来おせっかいで、他人の世話をするのが大好きな国民、私たち家族が住んでいた頃は、隣近所の人々が、おせっかいな程に私たち隣人を世話してくれた。彼らはボランティア活動に大変熱心、このようなアメリカの中間所得層がずっとアメリカ経済を支え、コミュニティでの奉仕活動を続けて来た。しかし、この中間所得層が大きな構造変化を起こしている。

アメリカの経済力の衰退がベトナム戦争頃から始まり、最初はブルー・カラーがその影響を受けたが、やがて、この影響がホワイト・カラーにも現れて来た。ミイイズムの蔓延。

中産階級の層が厚いことがアメリカの強みであり、経済力の源泉であった。しかし、レーガン、ブッシュ両大統領の共和党政権は、大幅減税その他の経済政策で活力挽回を試みた。結果は大金持ちのみが利することとなり、中間所得層にはマイナスの効果をもたらした。

中間所得層の内、ごく限られた上位の所得は増えているが、中位、下位の家庭の所得は大幅減少、男性の所得減少を、女性(主婦)が補う形、しかし、補い切れず、生活水準が落ち込んでいるのが下位グループ。同じ中間所得層でもバラツキが大きくなっている。所得格差の広がり。

この結果、中産階級の減少、衰退が止まらない。不均衡の拡大、不平等感の強まり、従来のように、奉仕活動に参加する余力のある人々が減っている。奉仕クラブの会員数の減少をもたらしていると考えられる。

## ◆◆◆ クラブ・ソング ◆◆◆

Once more we stand, new zeal our hearts imbuing;  
We raise our hand, Our service pledge renewing,  
We're to deny our motto's claim,  
Y's Men in fact as well as name,  
Always our objects to pursue,  
We consecrate ourselves anew.

うたえば ころろひとつに  
ともがき ひろがりゆきて  
とおきも ちかきもみな  
ささげて 立つやワイズメン  
さかえと ほまれゆたか  
まことは 胸にあふれん

## ☺ニコニコ・メッセージ☺

- ◎新しい増成総主事体制のもと、YMCAの業務に励むとともに、会員特にワイズと共に奉仕の業を。  
○娘がウィーン音楽コンクールでウィーン市長賞を受賞。感謝。・・・(燦々クラブ) 角 正信
- ◎ウェルネス実践の一つの環境として、又YMCAをさらに知る場として、ぜひ大阪YMCAフィットネスセンターへお越し下さい。・・・河村 実
- ◎増成様お久しぶりでございます。このたびは総主事御就任おめでとございました。  
新しい時代のYMCAを考えるという事は、自分の仕事について深く考える事につながる・・・と思えました。・・・池永 栖子
- ◎今迄YMCAの協力要請に応える受動的な立場ばかりであったことに気付きました。今後はYのプログラムに積極的に参画したいと思います。・・・栗山 佳三
- ◎増成新総主事のご活躍を期待して。・・・黒田 巖之
- ◎増成総主事のおっしゃった「まずYMCAの何かにcommitして下さい。」という言葉が印象的でした。これから、できる限り、Y's又はYMCAの催しに参加し、理解を深めたいと思います。・・・坂本 千春
- ◎増成恒哉総主事ようこそセンテニアルへおこし頂きました。  
○谷川メン対談ご苦労さんでした。  
○中村メネット、メネット会長よろしくお祈りします。・・・柴田 健
- ◎「YMCAとは何か？」を深く考えさせられた例会でした。この命題をいつもかかえて、YMCAとかかわっていきたくと思います。・・・杉浦 眞喜子

- 増成新総主事の来訪を得て大阪Yの21世紀への展望と抱負を聴いてよかった。彼の成功を期待。  
・・・鈴木 謙介
- YMCAのプログラムに参加してみようと思えました。増成総主事と谷川メンのお話ありがとうございました。  
・・・隅田 恵子
- YMCAの発展を祈って。・・・田中 穰二
- 新総主事を迎えて、YMCAとワイズのあり方を考える機会を与えられ感謝。・・・谷川 寛・有美子
- YMCAへの協力、かかわりのあり方を教えられました。YとY'sの発展を望みます。・・・津田 葉清政  
(鈍字で読んでもいい)
- 二人の子の手を引かずに、初めて一人で出席しました。これからセンテニアル一年生のつもりで出席させていただきます。今日はY'sの原点のお話を有難うございました。  
・・・中村 幸枝
- YMCAの原点に係るお話、程良い暖かさの中、気持ち良く(?)聞いてしまいました。・・・長瀬 由香子
- 今回の対談は非常に貴重かつ有益でした。感謝。  
張切っておられる増成総主事の諸事業が成功されるようお祈りします。○小生いよいよ70才定年で現役を退任しました。感謝。・・・福永 嘉彦・滋子
- YMCAとワイズの関係、これからのYMCAの方向を聞き、学ぶことが出来たことを感謝しています。  
・・・真嶋 克成
- 増成総主事の、YMCAと何らかのかかわりを持つとよいという言葉に強い印象を持ちました。  
・・・三浦 直之
- 今月はY'sにどっぷり漬るほど、多くのワイズイベントに参加して、Y'sについて、YMCAについて認識をあらためることが出来、感謝です。  
心あらたに、ワイズダムにのめりこむつもりです・・・  
・・・山田 孝彦
- YMCAのこれからをいろいろ勉強させていただきました。  
・・・山村 利子

〔個人消息〕 上月英子君：先般、膝を骨折され、当分動けないとのこと。一日も早く全快され、お仕事もゴルフも出来るよう、お祈りいたします。

### = 5月第2例会 =

日時：1996年5月22日(水) 6:30~8:30 p.m.  
場所：大阪グランドホテル

〔編集後記〕 やっと平年並の気温。足腰鍛える好季節になりました。我々センテニアルの若き増進のためにも、チャリティーランで一石二鳥を！(YF)